

令和4年度第1回佐久市社会教育委員会議 会議録

1 開会

2 あいさつ

吉岡教育長

中澤委員長

3 自己紹介

4 会議事項

(1) 令和3年度 実績報告等 (資料No.3~5)

事務局

資料No.3~5について、令和3年度の佐久市社会教育委員の活動、令和3年度に実施した市主催の生涯学習に関わる講座イベントについて、また、令和3年度に社会教育関係団体へ交付された補助金についてまとめた資料です。時間短縮を図るため、疑問点等は事前にお問い合わせいただくようお願いしておりましたが、ご意見ご質問等はいただいております。

(2) 令和4年度 事業計画等 (資料No.6~15)

事務局

資料No.6~14について、社会教育部の組織機構、事務分掌、職員数、予算、事務の概要について、令和4年度の佐久市社会教育委員の活動、令和4年度に企画している市主催の生涯学習に関わる講座・イベントについて、また、令和4年度に社会教育関係団体へ交付予定の補助金についてまとめた資料です。

また、資料 No. 15について、長野県生涯学習推進センターが主催する各研修や講座の年間計画です。

こちらにも、疑問点等は事前にお問い合わせいただくようお願いしておりましたが、ご意見ご質問等はいただいております。

事務局

お手元の令和3年度社会教育部所管施設の利用状況について、補足説明させていただきます。利用者数の前年度比について、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大等の関係で一時休館や利用制限、入館制限、イベントの中止等があったことから、令和3年度は利用者数が増加しています。

主なところをご紹介します。生涯学習センターは、建て替えにより多目的ホールを解体したため、令和3年度の利用者数前年比はマイナスになっています。コスモホールにつきましては、令和元年東日本台風で被災し、令和3年度の8月から再開したことにより、利用者数は増えています。川村吾蔵記念館は、令和2年に企画展を開催したことにより、入館者数が増加しましたが、令和3年は展示がないことから、利用者は減少しています。市民創錬センター等は、令和2年4月15日から同年5月31日まで臨時休館していたため、令和3年度は利用者数が増加しています。東会館については、令和3年12月に開館したため、令和2年度の利用者数は0ですが、令和3年度は12月からの利用者数が記載してあります。浅科会館についても新しい会館になりまして、令和3年の3月から利用できるようになったことから、利用者数は増加しています。中央図書館所管施設については、上段に利用者数が、下段に貸出し冊数が記載されています。台風被害によって時短営業等をしたことから、令和3年度からは利用者数が伸びています。

(3) 社会教育委員だより「そよかぜ」第8号について

事務局

佐久市社会教育委員だより「そよかぜ」第8号は、「昨年からは佐久市社会教育委員会会議のテーマを決めて活動を行っていること」について、寄稿をお願いします。

(4) 居場所に関する情報収集の中間報告について (資料16)

事務局

佐久市社会教育委員会議の活動のテーマを「みんなの居場所について考える」とし、これまで活動してきましたが、「教育行政の施策に対して提言すること」を今任期における活動の目標にしたいと考え、年間計画を作成しました。

委員長

ただいまの説明について、意見・質問等ありますか。

副委員長

佐久市社会教育委員はコミュニティースクール (以下CS) グループ、多世代交流グループ、子育て支援グループに分かれ研究を行っていますが、教育委員会に提言する際、3グループそれぞれ提言するのですか？一案にまとめるのですか？

事務局

現時点では、3グループそれぞれ出していきたいと考えております。

委員長

グループワークに移ります。前回の会議から本日まで各自「居場所」に関して情報収集するよう依頼しておりましたが、その成果について、グループ内で情報を共有してください。

～グループワーク (20分間) ～

委員長

時間になりましたので、CSグループの代表者である私から、情報共有の成果について発表します。

まず、東信教育事務所がまとめた『令和3年度「地域と共にある学校づくり実践事例集」』の一部を抜粋し、一覧にした資料を作成しました。その資料を参

考に、CSの中心的なコーディネーターを教頭先生が担っている学校は、事務量が大きく苦慮しているのではないかと考えました。

次に、猿久保にある子どもカフェに見学に行った成果について、約20名の子どもたちが佐久市中から集まり、共に勉強し、調理や食事を楽しんでいることが分かりました。悩んでいた学校に行けない子どもや保護者たちの相談の場、ひとやすみの場となっていました。

また、各学校のCSに関わる方々と意見交換会を開催した成果について、「他の学校の活動が知りたい・情報交換の場が欲しい・困ったときに相談できる場所がない」「学校（地域）ごとに温度差がある」「CSの認知度が低い」「主体が学校なので、どこまで関わったら良いのか難しい」などの意見を聞くことができました。

続いて、子育て支援グループの代表者は発表をお願いします。

委員

佐久市で活動している既存の団体の活性化を目指し、自分が関わりのある団体を中心に、5つの団体の主催者や活動場所、活動の趣旨等について、また市主催の子育てサロンやつどいの広場について調べました。

これらの活動をしている団体について、どのように周知を図るかが課題であり、佐久市ラインアカウント等を活用できれば効果的ではないかという意見が出ました。

委員長

続いて、多世代交流グループの代表者は発表をお願いします。

委員

多世代交流グループの報告では、不登校の子が、映画館に通った日を単位日数としてカウントすることを学校が認めてくれたという事例が出ました。映画館がその子の居場所になり、そこで触れ合う高齢者の方たちとの会話から社会性が育まれているという話でした。

また、ドラマのロケ地になってことにより注目されている旧大沢小学校にて、定期的なイベントを開催し、地域の方と子どもたちの交流を推進している団体についての事例もでした。

さらに、収集した情報を参考にし、以下の意見が出ました。

- ・学校の部活動が今度縮小されていく中で、地域のスポーツクラブが受皿になることができるのではないかと
- ・いきいきサロンについて、お茶を飲むだけの場所というイメージがあるので、男性の特技を生かせるような形で内容を工夫すれば、男性も参加について意欲的になるのではないかと
- ・シルバー人材センターに登録している方と学生たちが協働すれば、多世代の交流を生み出せるのではないかと

委員長

各グループの情報収集活動の成果発表について、ご質問等ありますか。

委員

学校に通えない子たちの居場所を、地域のスポーツクラブの中につくることができるのではないかと、という意見が出ました。不登校の生徒も学校生活は馴染めないけれど、自分の得意な運動などの面で人との交わりができ、意欲的に生活を送れるのではないかと考えます。その場合、佐久市ではスポーツクラブへの参加を学校の単位日数と認める意向があるか、教育長のご意見をうかがいたい。

教育長

前向きに検討します。

委員長

次のグループワークに移ります。グループごと今後の活動計画を立ててください。

～グループワーク（20分間）～

委員長

時間になりましたので、CSグループの代表者である私から、今後の計画について発表します。

6月下旬頃、各学校のコーディネーターとCSの担当の先生とのオンライン会議を開催し、各学校の実態・課題についてヒアリングしたいと考えます。7月頃、会議で聞き取った課題に対し、地域の力を活かした解決策を検討し、各学校にフィードバックするという計画です。

次に、子育て支援グループの代表者は発表をお願いします。

委員

良い活動をしている団体の存在が周知されていないことが課題だと考えます。周知の方法を研究するため、参加者へは利用しやすい情報収集手段を、主催者側には現在の活動と未来への展望を聞き取りたいと考えます。

SNSで情報発信し始めたら、急激に利用者が増えたという事例もあるため、佐久市の公式LINEアカウントに団体の情報を掲載することができないか検討していきます。資金面の課題も深刻だと感じますが、今後さらに検討を深めたいと考えます。

また、不登校の子が学校以外の施設に通った日数を出席日数とみなした事例に関して、こういったカリキュラムをクリアすれば、その施設に通うことを出席扱いとすることができるという具体的な指針を教育委員会が提示できれば、画期的ではないかという意見も出ました。

委員長

次に、多世代交流グループの代表者は発表をお願いします。

委員

まずこちらのグループでは誰にとっての居場所が必要かという視点で考えました。①学校に馴染めない子、②家に籠りきりの男性や独居の高齢者、③移住をされてきた方や核家族でなかなか子育ての相談ができず「孤育て」状態の方の居場所が必要ではないかという意見がでました。この3パターンの方たちにコンタクトを取ったり、あらい出しが難しいということも、課題であります。こ

のような居場所を必要としている方を巻き込めるようなイベントや既存の事業などを社会教育委員で探すため、公民館、旧大沢小学校、望月地区のスポーツクラブへ見学に行く計画を立てました。

委員長

それでは、各々の計画に沿って、次の会議までに調査活動を行ってください。

(5) CS・部活・スクールサポートスタッフ（以下SSS）について
教育長

現在「CS・部活・SSS」の運営は、学校側に多大な労力を要求している。また、コロナウイルス感染症の蔓延により、教育現場の負担が増えている。学校現場の働き方改革のため、地域の人材や資源について情報提供するなど、地域や社会教育の分野から学校側へ働きかけ、負担の軽減に尽力していただきたい。また、居場所づくりや地域から学校への働きかけを考えるうえで、ICTの有効な活用に関しても検討していただきたいと考えます。

(6) 佐久市教育振興基本計画について

学校教育課学務係長

佐久市教育振興基本計画は、教育基本法第17条2項の規定に基づきまして、佐久市の教育の振興のための施策に関する基本的な計画を示すものです。

また、策定にあたり、佐久市および佐久市教育委員会が作成する各種計画との整合性をとっています。

この計画は平成28年に策定され、これまで教育の振興に取り組んで参りましたが、社会情勢の変化を踏まえ、新しい計画として策定いたします。計画期間は令和5年度から令和8年度までの4年間を予定しています。本日はその骨子案についてご説明します。

計画策定の背景にある社会情勢の変化は以下のとおりです。

- ・人口減少、少子高齢化が急速な進行
- ・人生100年時代が到来
- ・新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変化
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進や超スマート社会の実現
- ・グローバル化や多極化、地球環境問題のさらなる進行
- ・持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みの推進
- ・ウェルビーイングの実現
- ・価値観やライフスタイルの多様化

佐久市においても数々の課題がある中、本計画はこれらの課題を克服し、未来を拓く子ども、生涯にわたり学び、互いに支え合える市民像の実現を目指すものであります。

本計画は、佐久市総合計画における教育文化分野の施策の方向性「生涯にわたり学び、生きる力を育むまちづくり」に基づき策定しております。

また、この施策の方針に基づきまして策定された佐久市教育大綱に書かれている基本理念「生涯にわたり主体的・創造的に学び、生きる力を育む人づくり、まちづくり」を共有し、その目指す子供像市民像を実現させるため、施策の基本的な計画を定めます。

また、教育委員会で実践プランとして掲げてございますコスモスプランは、この教育大綱と教育振興基本計画を下支えする実践の中で生かされるものと考えております。

今回の策定においては、基本的なコンセプトとして、変革が大きいこの社会において、教育の場面が人々の生涯にわたりどう必要となっていくか考え、以前までの計画では大きく分けられておりました学校教育と社会教育の分野の壁をとり、学校教育と社会教育が共に繋がるような構成としております。

では具体的な計画の部分を説明させていただきます。

まず目指す子ども像市民像の実現ため、人づくり・まちづくりという基本理念に着目し、『人を「そだてる」』、『人・まちを「つなげる」』、『学びの場を「ととのえる」』という三つの柱を立てました。

さらに、九つの施策の目標を立て、具体的施策の方針を設定しました。

施策の目標1

子どもたち個々の可能性を最大限に引き出し、変化が起き激しい時代を切り拓いていくため、「未来を拓く学びの推進」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、社会変化の激しい時代に対応していくため、個別最適な学びや ICT を活用した教育、グローバル化に対応した教育、キャリア教育の推進等を挙げています。

施策の目標2

未来を拓いていくためにはその子どもの特性や環境によらず、学びが保障されていることが重要であることから、「全ての子ども状況に応じた学びの保障」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、特別支援教育の推進や就学援助等の充実、医療啓発や外国児童生徒への支援などを含む多様な子どもの学習機会の保障、また不登校対策を掲げています。

施策の目標3

目指す子ども像と市民像の実現のため、家庭や地域における教育力の向上は不可欠であることから、「家庭や地域の教育力の向上に向けた支援」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、地域の中で学びあえる体制の充実や家庭教育の推進、情報化社会の変化に応じた教育の推進等を掲げています。

施策の目標4

生涯にわたり学び続けることが重要であることから、「生涯にわたりともに学ぶ力の育成」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、生涯学習を推進する取り組みの充実や読書活動の推進等を掲げています。

施策の目標5

生きる力を育む中で重要となる心の面に着目し、「豊かな「こころ」を育む学びの推進」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、学校での道徳教育や人権教育、男女共同参画社会に向けた取り組みの推進、また文化芸術活動といじめ防止対策の推進等を掲げています。

施策の目標6

先ほどの心に対し、こちらは体に着目して、「健やかな「からだ」を育む学びの推進」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、生涯スポーツ・競技スポーツの推進や学校における体力運動能力の向上、食育や安全安心な学校給食の提供等を掲げています。

施策の目標7

互いに支え合い、輝き続けるためには、協働による学びの仕組みが重要となることから、「多様な学びと協働の仕組みづくりの推進」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、地域とともにある学校づくりの推進、また地域や団体がつながる学びの推進、地域ぐるみの青少年育成等を掲げています。

施策の目標8

多様性の時代に互いに支え合い学んでいくためには、生まれ育った佐久市の文化や歴史を理解すること、国際理解や他の文化を理解していくことが重要であることから、「ふるさとと世界の歴史・文化の学びと理解の促進」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、国際理解教育の推進や「佐久の先人」などをはじめとした地域を知る郷土教育、また香坂山や五稜郭などをはじめとした文化財の保護・継承・学びの促進等を掲げています。

施策の目標9

「学びの場を「ととのえる」」ため、「学びを支える学習環境の充実」という目標を設定しました。この目標における施策の方針として、学校教育施設の充実、社会教育施設の充実から始まり、学校現場における教職員への支援等を掲げています。

こちらの骨子案は、現時点では案ですが、市役所内での調整後、パブリックコメントを行い、今年度中には、教育振興基本計画として正式に公表したいと考えております。

委員長

質問・意見等ありますか。

委員

「安心・安全」という言葉が使われているが、以前に佐久市スポーツ推進計画の案を拝見した際、類似の表現があり、「安全・安心」という表現が良いのではないかと意見を述べました。目に見えるものについて安全である、安全であるから心が動いて安心を感じるのではないかと考えるためです。市としての言葉の使い方の統一をお願いします。

教育長

確認し、統一します。

委員

施策の目標9「学びを支える学習環境の充実」の施策の具体例に、野沢会館の改築とあるが、野沢会館をここに入れた理由として、何か具体的な活用方法が検討されていますか。

学校教育課学務係長

野沢会館の改築をこの具体例に挙げた理由は、野沢会館も基本的には社会教育施設というくくりの中に入るためです。

(7) その他

事務局

次回の社会教育委員会議を7月12日火曜日に開催予定です。

5 閉会